

入隊予定者の被服採寸を開始

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）はこのほど、この春に入隊予定者の被服採寸を開始した。

「被服採寸」とは、入隊予定者が入隊後に自衛隊から貸与される制服等の採寸を事前に行い、入隊時に速やかに貸与を行うことが目的で実施する。

毎年、入隊前のこの時期になると必ず行う「恒例行事」であり、入隊予定者が自衛隊の門をたたく前の心の準備をする儀式でもある。

身長や肩幅等を測定後、サンプルの制服に身を包んだ入隊予定者の表情からは、近づいてくる入隊日への期待と緊張が垣間見えた。

また、入隊を控え、誰もがこの時期に感じる不安や緊張等を解消するため、所長や広報官が親身になって相談に乗るなど、精神面の支えにも努めた。

静岡地本は、引き続き入隊予定者一人一人に寄り添ってサポートを行い、無事入隊日を迎え自衛官として羽ばたいていけるよう努めていく。



4000名を魅了した「静岡音楽祭」

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・根本博之1等陸佐）は、1月28日（土）、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ（静岡市）において静岡県防衛協会主催「第36回静岡音楽祭」を支援した。

この音楽祭は昭和57年に軍歌祭として始まり、年々創意を凝らし実施してきた県内最大規模を誇る自衛隊の音楽祭である。今回は2部構成とし、第1部は県統一の入隊・入校予定者激励会として初めて行った。95名の入隊・入校予定者が集まり、県知事、国会議員、市長、県内自衛隊指揮官等の来賓を迎え、入隊予定者代表は希望に満ちた言葉で自らの決意を力強く表明した。

第2部の音楽祭は、これまでで最多の6団体が県内外から集結し、第34普通科連隊らっぱ隊（板妻）が、自衛隊を象徴する「らっぱ吹奏」で音楽祭の始まりを告げ、防衛大学校儀仗隊（横須賀）は、規律あるドリル演技や演技途中の空包射撃で観客を魅了した。また地元静岡市から県立科学技術高等学校吹奏楽部が出演し、大観衆を前に堂々たる演奏で高校生の若さを見せてくれた。

第1音楽隊（練馬）は、「ラコッツイ行進曲」から「スーダラ伝説」とブクの演奏の幅広さを堪能させられると、滝ヶ原雲海太鼓（滝ヶ原）は、力強く生命力に溢れた太鼓の迫力を伝えてくれた。フイナールを飾った中部航空音楽隊（浜松）は、「前前世」など話題曲も盛り込み楽しい音楽を中心に盛大に盛り上げた。

各音楽隊の熱演を受け、来場者数が4000名を超えた会場では、溢れんばかりの笑顔と拍手がみられ盛況のうちに幕を閉じた。静岡地本は、今後も様々な機会を捉え、自衛隊への理解・協力を得つつ、募集に繋げる工夫を凝らし広報活動に努めていく。

